

## プリンターとインク

長年にわたり使ってきたパソコン用プリンターの調子が悪くなった。なだめすかし、辛抱して使ってきたが、ついに動かなくなった。毎朝レポートを書き、印刷して何回もチェックして投稿してきたので、印刷できないと困ってしまう。このプリンターをいつ買ったか記憶にないが、10年ほど前から愛用してきた。



それで家電量販店のプリンター売り場に行った。新しい機種が並んでいたが、カラーではないコンパクトなプリンターが目にとまった。早く使いたくて、持って帰ることができる小型サイズを考えていた。それと「印刷コストを気にせずプリント」「インクボトル1本で約6000ページの印刷ができます」という案内に惹かれた。

じつは故障したプリンターで困っていたのは、印刷コストである。プリンター本体はあまり高くなかったと思うが、インク代がきわめて高く、継続的な支出が必要であった。できるだけ印刷するのを控え、カラーはめったに利用しないようにしてきたが、インクは容赦なく減りつづけ、買い替えを迫る。「リサイクル品」を購入してきたが、それにより故障を早めたのではないかと考えている。

先日の宮本憲一先生とゼミ卒業生らによる「オンライン研究会」で、最近の製造業は本体よりも、その後のサービスで「利益」を得ることが多くなったという発言があった。まさにプリンターとインクは、その典型ではないか。製造業のサービス化、資本主義の「非物質主義的転回」という、諸富徹さんの『資本主義の新しい形』の主張を裏づけるものだ。

購入したプリンターは「ヤドカリ」という名のインクボトルであり、これを挿すだけで準備完了。このインクボトル1本により、A4で約6000枚が印刷できるという。印刷スピードも速い。問題はカラー印刷ではないことだ。でもカラー印刷はあまり使わないので、ブラックだけで十分である。これまでは自宅で1枚印刷し、コンビニで10円コピーして、研究会などで配っていた。これからはプリンターで大量印刷して、多くの人に配ることにしよう。なんだか、大阪市廃止・分割を阻止する活動の情報発信の機会が広がったようで嬉しくなった。



すこし「失敗談」もお伝えしたい。たまっていたレポートなどを早く印刷しようと、重いプリンターを持って帰宅して、すぐに梱包をとりプリンターを取り出した。ここまでは順調にいったが、プリンターがなかなか「正常」にならない。翌朝なんとか動いてくれたが、今度はパソコンから印刷できない。ナンデヤネンと文句を言いながら試したが、エラーが点滅。これはエラーなことだと店に行くことに。私のケーブルの取扱い「ミス」だと分かった。ミスミス時間を浪費したが、なんとか立ち直り、笑顔が戻った。

(2020年6月28日)